FFRI yarai 導入事例

Fujikura 株式会社 フジクラ 様

社会インフラ製品等、社会貢献性の高い製品をグローバルに生産、提供
情報セキュリティ対策は毎年の全社情報セキュリティ教育と標準PCの展開

株式会社フジクラ様(以下、敬称略「フジクラ」)は、電線や光ファイバといった社会インフラ製品、スマートフォンの電子部品や自動車電装部品をはじめとした産業機器、電子・電機機器等、社会貢献性の高い製品をグローバルに生産し、提供しているBtoB企業です。2015年度には2020年度を最終年度とする「2020中期経営計画」を「投資家を含め国際社会が高く評価するフジクラグループの実現」と定め、目標実現に向けた環境、社会、ガバナンス(サイバーセキュリティ対策を含む)への取り組みを「20中期CSR重点方策」として策定しています。

フジクラ 本社ビル

フジクラでは、電子情報セキュリティに関する基本方針や指針、規定やセキュリティ関連の細則を電子セキュリティの体系として定め、電子情報セキュリティ委員会を設置し、運営しています。同委員会は、システム部ほか全社横断的なメンバーで構成されており、委員会事務局では、電子情報セキュリティについての全社教育(毎年全員)の実施、各種施策の実施及び各部門での施策実施状況の確認(監査)、PCの棚卸し等を行っています。

また、国内向け標準PCの仕様を定め、一元的な導入、設置を含めた運用・管理を実施しており、これまでに国内全拠点のPCのセキュリティ対策として、ウイルス対策ソフト、PCハードディスクの暗号化、ICカードによるPCのログイン等、さまざまな施策を実施してきました。

導入の背景
「標的型攻撃対策」「サポート終了OSの延命対策」の2つの課題を同時に解決

フジクラでは昨今の標的型攻撃メールの増加に伴い、ウイルスやマルウェアの感染、情報漏洩などのリスク拡大に対応した追加の対策を検討していました。

「2015年の日本年金機構を狙った標的型攻撃をメディアが大きく報道されたことや、従来から一般ユーザ向けの情報セキュリティ教育を毎年実施していたこともあり、実際に標的型攻撃メールを開封してしまったというユーザからのトラブルの報告や相談は、それ程多くはありませんでした。しかし、標的型攻撃メールの内容がより巧妙になり、従来のウイルス対策ソフトや次世代ファイアウォールによる出口検疫では、未知のウイルス感染やいわゆるゼロデイ攻撃のリスク対策は不十分な状態で残っていました」(佐久間氏)

一方で製造現場の機器制御や実績データ収集用に設置されていた一部のクライアントPCでは、製造設備や実績データ収集用の機器の更新・変更まで、しばらくの期間、サポートが終了した旧OSであるWindowsXPをネットワーク隔離やゲートウエイ機器設置などの対策で延命させていましたが、これらの情報セキュリティ対策強化も急務となっていました。

当初は「標的型攻撃メール対策」と「旧OSの延命」という2つの課題を別々の課題として捉えて、対策もそれぞれ別々に検討していましたが、いろいろと調査・検討を重ねる中で"FFRI yarai"ならば、これら2つの課題を同時に解決できることがわかり導入となりました」(佐久間氏)

導入の経緯
「ふるまい検知」「5つのエンジンによる多層防御」と「採用実績の多さ」を評価

FFRI yaraiの製品選定にあたり、とりわけ重視された機能は「ふるまい検知」と「5つのエンジンによる多層防御」の2点でした。

「FFRI yaraiの「ふるまい検知」と「5つのエンジンによる多層防御」機能は、未知のウイルス感染やゼロデイ攻撃のリスク対策として、脅威の検知・防御に優れており、先の「標的型攻撃メール対策」と「旧OSの延命対策」という弊社の2つの課題を同時に解決するソリューションとなり、また、官公庁他での採用実績の多さや、既に導入済みのセキュリティ製品と共存できる点も高く評価しました」(佐久間氏)

導入の効果
アンチウイルスや次世代ファイアウォールで検知不可の不審なファイルを検知

FFRI yaraiの構築方法は、①クライアントへ展開→②評価(検出モードでログをチェック、ホワイトリストの作成)→③通常(ブロック)モードで利用開始となっており、現在、フジクラではFFRI yaraiを国内全拠点のPCに展開する準備として、検出モードで適用しています。

「管理コンソールで全台をインストール・アンインストールできたり、ライセンスの更新ができたりするのは使いやすいと思いました。管理コンソールの表示も見やすいですね」（立川氏）

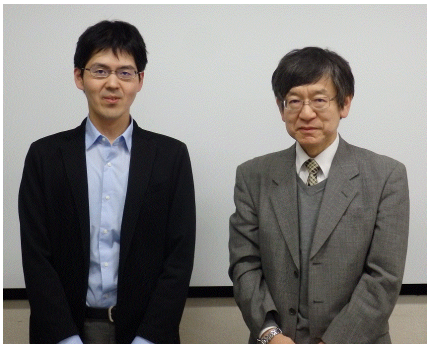
今後は各拠点において検出モードで見つかったプログラムやスクリプトを精査し、必要なものを選り分けてホワイトリスト登録を行い、通常(ブロック)モードへ移行させる予定とのことですが、検出モードで適用し始めてすぐにFFRI yaraiの「ふるまい検知」力を実感する出来事があったそうです。

「社外の方から、弊社のIPアドレスによる不正アクセスがあったとの連絡を受けた際、 原因となった弊社のPCをFFRI yaraiで容易に特定できました。FFRI yaraiでは「ふるまい検知」で未知の脅威として捉えていましたが、従来のウイルス対策ソフトや次世代ファイアウォールだけでは、これほど容易に検知、確認できなかったと思います」（佐久間氏、立川氏)

今後の展望
FFRI yaraiの連携製品でさらなるセキュリティリスクの軽減を目指す

「サイバーセキュリティを取り巻く環境は日々変化していくため常に対策を考え続けなければなりませんが、今回のFFRI yaraiの導入で、当面の課題は解消し、エンドポイントは、一定レベルのセキュリティ対策が実現できたと考えています」（佐久間氏）

今後はマルウェア解析ツールやマルウェアの感染経路等をトレースする製品等、FFRI yaraiと連携可能なソリューションの導入も検討し、さらなるセキュリティリスクの軽減を目指す計画です。



(左から)システム部 係長 立川 智大氏、
システム部 グループ長 佐久間 祐一氏

製品・サービスについてのお問い合わせは
株式会社ＦＦＲＩセキュリティ
〒100-0005
東京都千代田区丸の内3-3-1　新東京ビル2階
TEL：03-6277-1811　E-mail：sales@ffri.jp
本製品に関する情報はインターネットでもご覧いただけます。
https://www.ffri.jp/

Ver. 2.00.02　2017年6月現在